



# 医療福祉・在宅看取りの 地域創造会議 通信 第97号



## 第98回ワーキンググループ会議 (R4.2.24)

### 「作業療法士による排尿ケア ～アセスメントと多職種連携の重要性～」

●話題提供者 社会福祉法人 慈恵会 ゆいの里  
作業療法士 岡本 理宏 さん

#### 排泄の課題

- ・「当事者の困り事」と「周囲の困り事」が混在している
- ・本人が「困る」と感じていないと介入しにくい



排泄ケアは「動作」「機能」「当事者の理解」  
がそろわないとすすみにくい。  
だからこそ、多職種連携での取り組みがとて重要  
となるのです！

#### 排泄における多職種連携の重要性

- 1) 動作が「機能・動作」「日中～夜間」と多岐にわたり複合的  
→すべての時間を把握できない
- 2) 治療・ケア・マネジメントが合致しないと解決・改善が難しい  
→専門職間の協力なしにはわからない
- 3) 当事者の想いが大きく関わってくる  
→プライベートなことで見えづらいためこそ大切に



#### 参加者の声

○高齢になると排泄機能が落ちるのは当然のこと。そういう認識で土壌づくりをしていくことが大切。  
○オムツ助成の数が右肩上がりになっているという現状の中で、この排尿のプログラムがきっかけで抑えることができるのではないかと考えている。  
○作業療法士が、排尿についてこんなに専門性が高いとは思っていなかった。お互いやっていることを知ることで頼めることが増え、連携の幅も広がると思う。  
○本人のペース、介護サービスの頻度や内容、家族の負担の軽減の3つがバランスよくまわっているときが一番良いのではないかと。専門家の専門的な意見をうまくまわす潤滑油になると思う。

#### 彦根市立病院 北川智美看護師のコメント

排泄介助に関わるのは看護師や介護士が多いが、多職種でかわって様々な視点が入ることは大切だと思う。  
排泄に関する価値観は様々で、依存型の人もいれば自立型の人もある。「これだけは最期まで自分で！」という人もおり、他のことを省いてでも排泄の自立を選ばなければならないこともあるので、どういう形であっても本人が納得し折り合いが付けられるように、個人の価値観や人間性を尊重したケアをしていくことを忘れてはいけない。

○認知症の方の排泄のケアは難しい。入院されると治療優先となり、すぐにオムツとなってしまうことが現状としてあるので、医療者にも認知症の理解としっかりとしたアセスメントをしていただきたい。排泄ができなくて退院できないと困っている方もいる。本人の自立と、どこまで手助けをするかは悩むところではあるが、状況を見て声掛けなど工夫していく必要がある。  
○生活環境によっても様々だが、独居の方に関しては介護サービスの内容によって、本人よりも介護する側の意見が尊重、優先される場面は多々あるのではないかと。  
○訪問時に様々な相談を受けることも多いが、排尿に関する相談は、関係性ができないと受けづらい。

排泄できるかどうかは退院にも関わっていることなので、病院勤務のときには排泄の相談が非常に多かったが、地域に出るとそれ以外の困り事で相談を受けることが圧倒的に多い。

それだけ言いづらいことなのだろうと改めて感じた。  
だからこそ早めに見つけ、早めに対処することが大切であり、時間がない中で難しいが、多職種で連携しながらかわる時間を見つけていきたいと思う。



岡本 理宏 さん

【次回ワーキンググループ会議】

- 日時：令和4年3月24日(木) 18:30～20:00
- 場所：滋賀県庁 新館7階大会議室 (Web可)
- テーマ：「突然の別れに遭遇したとき」
- 話題提供者：滋賀医科大学医学部社会医学講座  
教授 一杉 正仁 さん

#### 排泄に関する作業療法士の主な役割

- 排泄・排尿 動作のアセスメント
- 排泄自立や介助量軽減の獲得に向けた機能訓練、福祉用具や代償手段の提供
- 排泄機能に関する知識・理解
- 失禁予防に関するトレーニング指導

リハ職は「他職種と他職種」、「利用者と暮らし」、「機能と動作」をつなぐ接着剤。  
動作のアセスメント、実用動作の獲得、情報のつなぎ役として、ぜひリハ職を活用してください！

医療福祉・在宅看取りの地域創造会議運営事務局  
(滋賀県庁 医療福祉推進課内)

Tel 077-528-3529  
Fax 077-528-4851  
e-mail info@chiikisouzoukaigi-shiga.jp